

挑む



粒のバランスが良い砂を造れる「V7製砂システム」
(東広島市の福原産業)

激しく、細かい砂が水と一緒に流れた。
「空気を使えば、乾いた砂もふるい分けできる」と考えた賀谷隆人取締役開発部長(左)は、破碎機と空気分離機との組み合わせに着目した。

2年テスト

碎砂を海砂のように丸くする破碎機の開発は、同社に約四十年の技術の蓄積があつてそれほど問

▲事業所メモ》吳市広白岳
1丁目の約1万7000平方
メートルを発祥の地とする
鋼や機械加工の専門業から1
979年、自社製品を開発し
ていた建設機械、フィルター

部門などが独立して創業し、

同年に広事業所を開設した。

本社は東京都新宿区、製造拠

点は、ほかに川尻事業所(貝

市川尻町)がある。

碎いた岩 風力で分離

きっかけは、地元広島県での海砂採取禁止だった。総合機械メーカー、コトブキ技研工業広事業所は、海砂並みの品質の砂を製造するプラントを開発。環境破壊への懸念から採取禁止の動きが広がる中、砂の供給不足を解消する新製品として売り上げを伸ばしている。

高さ十七㍍、幅一五㍍が多様で、バランスが良

い」と説明する。そのため、高度成長時代から大量採取が続いた海の海底に堆積した海砂は、波に洗われて丸く、多くの砂が落ちてくる。砂石業の福原産業(東広島市)で、昨年八月から稼働する製砂機。生産部の風呂本剛主任(三三)は「粒のサイズ

水で練つて作る。瀬戸内海の海底地形変化や生産業者らの不祥事、県は採取業者らの不祥事、を機に一九九八年、採取

が、石の種類はさまざま。事業所の試作機で風速、風量、風圧、時間を変えて二年間テストを繰り返し、完成にこぎ着けた。

乾式製法はほとりが付いた。従来の製砂機は乾いた砂のサイズ選別が難しかったが、空気分離機を破碎機の真下に設置。密閉構造にし、粉じ

砂を採取していた九州北部と瀬戸内海沿岸を中心

コトブキ技研工業広事業所(吳市)

海砂の代替砂製造機

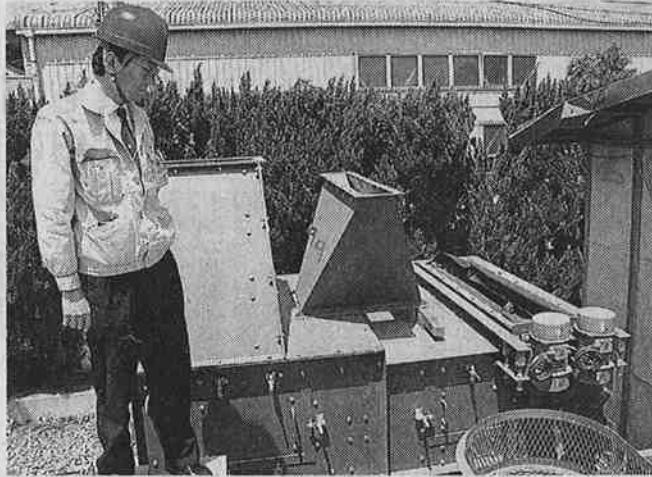
を全面禁止。生コンクリート業界で代替砂の確保が緊急課題となつた。

だが、岩を細かく砕いており、しかも大きさは均一になる。奥原武範社長(五四)は「海砂と同じ品質の碎砂ができれば、ビジネスチャンスになる」と、新たな製砂機開発に力を入れた。

乾式製法はほとりが付いた。「V(ビクトリー)7製砂システム」と名付けた。

第一号は二〇〇〇年二月、向原碎石(安芸高田市)に納入。石のサイズ

供給不足解消の切り札



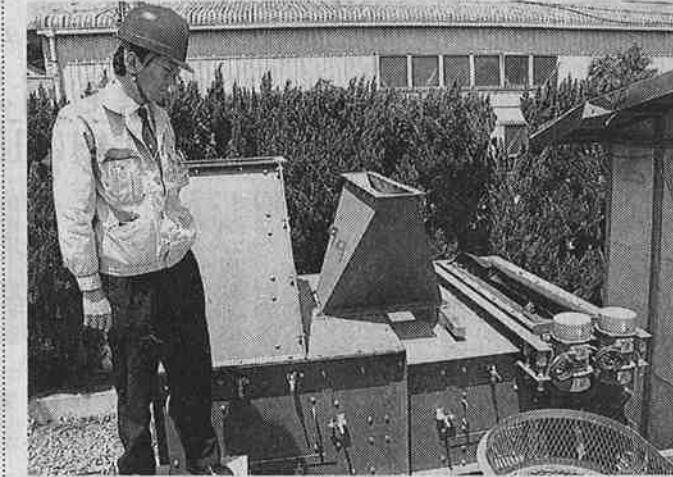
空気分離機の試作機を見る賀谷取締役(広事業所)

1丁目の約1万7000平方メートルを発祥の地とする

鋼や機械加工の専門業から1979年、自社製品を開発し

ていた建設機械、フィルター

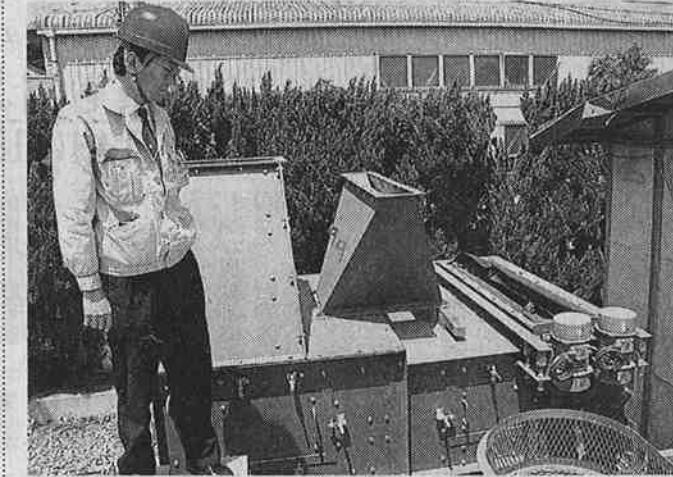
部門などが独立して創業し、同年に広事業所を開設した。



空気分離機の試作機を見る賀谷取締役(広事業所)

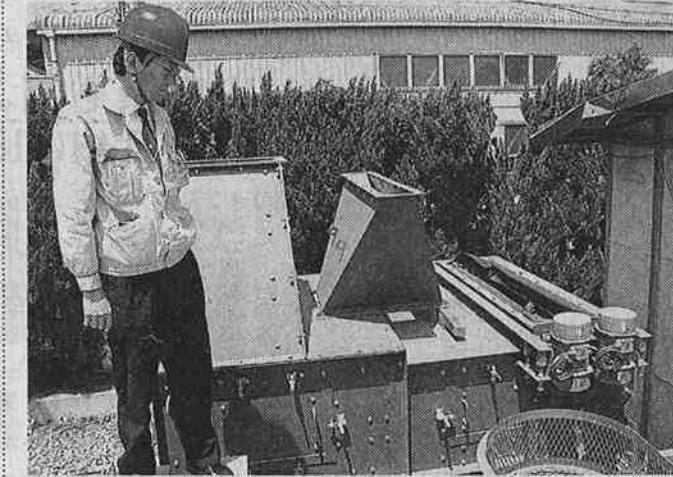
機に比べて半額程度で済む。汚水やヘドロの処理費用などが、不要になつたためだ。

費用などを、不要になつたためだ。



空気分離機の試作機を見る賀谷取締役(広事業所)

ん発生の抑制と設備のコストパクト化につなげた。機に比べて半額程度で済む。汚水やヘドロの処理費用などを、不要になつたためだ。



空気分離機の試作機を見る賀谷取締役(広事業所)

機に比べて半額程度で済む。汚水やヘドロの処理費用などを、不要になつたためだ。

費用などを、不要になつたためだ。